

シリーズ **土地改良** のあしあと

白山町土地改良区 (津市)



南家城川口井頭首工

本地区は、三重県の中央部青山高原の南麓で清流雲出川の中流域に位置しています。平成18年7月に津市白山町内の「南家城川口井土地改良区（昭和27年5月設立）」、「白山西部土地改良区（昭和57年7月設立）」、「家城土地改良区（昭和63年8月設立）」

の3つの土地改良区が合併し、新たに「白山町土地改良区」として設立されました。

現在では、地区面積294.4ha、組合員数843名で、理事13名、監事4名、総代30名、事務局1名で組織運営にあたっています。

また、地区内には多面的機能支払制度の活動組織が多数活動しており、その内4つの活動組織の事務を土地改良区で受託し、活動組織と土地改良区が一体となって地域の保全、施設の維持管理を行っています。



幹線用水路



集落内の幹線用水路（洗い場）

その中でも南家城川口井は、平成18年2月に「疏水百選」に認定され、これを機に松森久志理事長は、井水の歴史、農業用水や地域用水としての役割など、毎年1回町内の小学校に出向き「出前講座」を行い、子供たちに「水」はもとより地域資源の大切さを伝えていきます。

加えて、平成28年11月には、「世界かんがい施設遺産」に登録され、この井水が地域の文化的遺産であるとともに地域住民の宝であるとの認識が益々広がっています。

また、地域の将来の営農ビジョンも検討し、平成27年度に農地中間管理事業を活用し、地区内の農地の集積にも取り組んでいます。

先人達の幾多の苦難苦労を経て築き上げられた施設を、良好な状態で次世代に継承していくことが、重要な責務であると考えています。



出前講座の様子